

日本海に遊ぶ

京都大学水産実験所職員
上野 正博

誰が殺したヒラメの子

場付近に網を仕掛け、捕れた獲物の胃袋の中身を片っ端から調べたのです。これが意外と大変。食べてから時間がたつてると消化が進

いて飲み込むので骨も残らないのです。そこでWさんは胃の中身の遺伝子を調べました。胃の中身からヒラメの遺伝子が見つければヒラメを食べているとい

匹あまりのカニを捕まえてなかなか捕まえられませんが、何度か実験を繰り返した結果、カニが狩りに成功するのはせいぜい二日に一度。狭い水槽のなかでこれでは、広い海ではどう

ても、一日にどれくらい食べるかを調べてみま

てい成功できませんね。

そこで、Wさんも一所懸命にヒラメを追いかけるのですが、すばしっこく逃げ回るの

でなかなか捕まえられませんが、何度か実験を繰り返した結果、カニが狩りに成功するのはせいぜい二日に一度。狭い水槽のなかでこれでは、広い海ではどう

ても、一日にどれくらい食べるかを調べてみま

てい成功できませんね。

そこで、Wさんも一所懸命にヒラメを追いかけるのですが、すばしっこく逃げ回るの

この冬はずいぶん暖かでしたね。この分だと例年4月に始まるヒラメの子どもの着底が、3月末には始まるかも知れませんが。由良や神崎など海水浴場になるようなきれいな砂浜の沖、水深5メートルあたりにはたくさんヒラメの子どもの着底が確認されています。でも、ほとんどは大きな魚やカニなどに食べられ生き残るのはほんの少しです。

先日、修士論文をまとめたWさんのテーマはヒラメの子どもの食べる生物の探索。着底

み、何か訳の分からないものになってることも多いのです。そこで消化されにくい骨などを頼りに何を食べているかを調査します。着底場付近には、エビやカニの仲間が魚よりもずっとたくさんいます。たくさんヒラメの子どもを食べているのはこいつらが怪しいと、エビやカニの胃袋も調べ始めたのです。魚がここで難問発生。

場合あまり噛まずに丸飲みするので骨が残りません。でも、エビやカニは細かく噛み砕



狩りの名手コウイカ

コウイカの子供がたくさん出てきたのです。コウイカは狩りの名手、二本の長い触腕をムチのように飛ばして、千分の15秒という目にもとまらない早さで獲物を捕らえます。

ヒラメの子どもが着底するころ、コウイカも産卵のために浅場に集まってきました。ヒラメ殺しの主犯はコウイカなのでしょうか。